

浦添市コミュニティソーシャルワーク事業 港川中学校区事例報告

牧港三銃士★登場!!

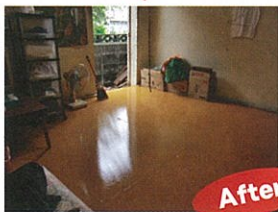
ネットワークから生まれた助け合い

浦添市コミュニティソーシャルワーク事業は、「誰もが安心して暮らすことのできる浦添市」を目指し、中学校区単位で地域福祉支援ネットワークづくりに取り組んでいます。

地域福祉支援ネットワークづくりとは、地域で生活をする個人・家族をはじめ、その地域で働く人々や活動している団体などがお互いに支え合い、連携することで地域間での諸問題に対応していくつながりづくりのことです。

そこで今回は、民生委員による見守り活動からつながった助け合いボランティアの事例を報告します。

今年の4月、牧港でひとり暮らしをしている高齢者Aさん宅の床が抜け落ちる事件がありました。
見守りを行っていた担当民生委員の嘉手川さんは、前牧港自治会長の宮城さんへ相談。そこから大工経験のある地域の又吉さんへ声かけを行い、ボランティアで床の修復を行いました。



床が壊れて困っている方がいるので、助けたい！
でも業者へ頼む費用がない。

発見者
民生委員
(嘉手川さん)

困っている方
(Aさん)

前自治会長
(宮城さん)
※大工経験者

地域の住民
(又吉さん)
※大工経験者

大工の経験のある又吉さんへ一緒に協力してもらえるか聞いてみよう!

大工の経験がある私にも協力できることなので喜んでお手伝いします!

協力依頼→

支援

担当ケアマネージャー

介護や福祉サービス利用のためのケアプランを作成し、Aさんを支援している。

日頃からのサポート

コミュニティソーシャルワーカー
(港川中学校区CSW)

Aさんを取り巻く生活環境等を改善するため地域や関係機関と連携した支援等を行う。

今回、ボランティア対応していただいたみなさんからお話をうかがうと、「この地域のことは口頭で連携や近所つきあいがあつたら」また、「今後、他の地域でもこのような助け合いや地域間のネットワークが広がってほしいなあ」と、おっしゃられていました。



写真右から嘉手川重要さん、宮城政一さん、又吉太郎さん